

# ちのつき 知野 光希さん

燕市出身で、車いすバスケットボールの U23 日本代表として9月の世界選手権の優勝に貢献した知野さん。自身の障がいと障がいに対する世間の反応についてお話を聞かせてくれました。



※知野さんの活躍については、広報つばめ 2022 年 11月号「シリーズひと」内で紹介しています。

## 「気軽に接してくれる気持ちが嬉しい」

私は、「おうだんせいせきずいえん横断性脊髄炎」という病気です。

記憶はあまりないのですが、4歳の頃にいきなり両足に痛みが走り、その次の日には足が動かなくなっていました。この病気の原因は分かっておらず、治療法も確立されていないようです。周りの人には過剰に心配されることがよくあって、病気のことあまり触れたがらない人がほとんどです。

私としては、「どういう病気なの?」と気軽に聞いてくれて大丈夫。そのくらいフランクに接してくれた方が、距離が縮まって良いんです。

何より、私の「障がい」について知ろうと思って接してくれる気持ちがとても嬉しいです。

## 特集

# 手を取り合って



## 障がいへの理解を深め、適切な配慮をしましょう

「障がい」には多くの種類があります。主な特性や配慮が必要な人への心配りについて紹介します。  
※下記のほか、発達障がい、言語障がい、難病など心身の機能の障がいのある人も含まれます。

### 視覚障がい

全く見えない、見える範囲が狭いなど人によって見え方がさまざま。

#### ～手助け・心配り～

点字ブロックの上で立ち止まったり、障害物を置かない。

### 内部障がい

心臓、呼吸器、じんぞう ぼうこう腎臓、膀胱、直腸、小腸、肝臓、HIVによる免疫機能障がい、環境の影響を受けることも。

#### ～手助け・心配り～

携帯電話やタバコの煙など公共の場でのルールを守る。

### 聴覚障がい

全く聞こえない、雑音が混じるなど人によって聞こえ方がさまざま。

#### ～手助け・心配り～

筆談、手話、口話など会話の方法を確認する。短文で簡潔な情報で伝える。

### 精神障がい

統合失調症やうつ病などさまざまな疾患により、生活のしづらさを抱えている。

#### ～手助け・心配り～

不安を感じさせないよう、笑顔で穏やかに対応する。

### したい 肢体不自由

手や腕、足や脚、体幹に障がいがあり、体を思うように動かせないなど。

#### ～手助け・心配り～

車いすを使用している人の移動やドアの開閉などを手伝う。

### 知的障がい

発達期に知的機能の障がいが見られ、社会生活への適応がしにくいと感じる。

#### ～手助け・心配り～

ゆっくり、丁寧に話し、絵や写真などでわかりやすく説明する。

私たちは1人きりでは生きていけません。

みんな誰かに支えられて生きています。

毎年12月3日～9日は障がい者週間です。

1人ひとりが障がいへの理解を深め、

すべての人が助け合い、支え合いながら暮らせる「燕」にしていきたいと思います。



# つばめ 2022 バリアフリーフェス

今年の「障がい者週間」と合わせて、障がいや障がいのあ  
る人への関心・理解を深めるため、12月8日(木)からイベ  
ントを開催します。



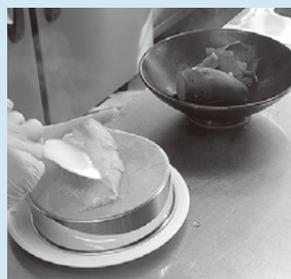
## ①障がい者就労施設などの活動・商品紹介

日時 12月8日(木)～10日(土) 午前10時～午後3時30分  
会場 市役所1階 つばめホール  
内容 市内12施設の個性豊かな商品が並びます！

みんな表情が違う  
ので、お気に入り  
を見つけに来てく  
ださい！



つばめキャンドル



手作りジャム

気持ちを込めて  
作った手作りジャ  
ムです。ぜひ味わっ  
てください！

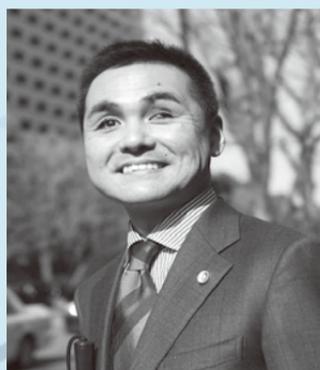
■問合せ 社会福祉課 障がい福祉係 ☎ 0256・77・8172

## ②こころのバリアフリー講演会

日時 12月10日(土) 午後1時30分～3時  
場所 市役所1階 会議室101～103  
定員 50人(要事前申込)

無料

手話通訳  
要約筆記  
あり



■演題 『全盲の僕が弁護士になった理由』

講師 大胡田 誠さん

〈講師プロフィール〉

1977年静岡生まれ。12歳で視力を失うも弁護士を志し、8年の苦学を経て司法試験に合格。町弁(町医者の弁護士)として、さまざまな問題を抱える依頼者を支えている。2012年に出版した著書「全盲の僕が弁護士になった理由」(日経BP社)がメディアに取り上げられ、2014年ドラマ化。2019年 おおごだ法律事務所を開設。プライベートでは2児の父。

■問合せ・申込み 燕市障がい者地域生活支援センターはばたき ☎ 0256・66・5688

## 心のバリアフリーで 助け合い暮らせる燕に

燕の障がい者理解の現状は？  
以前は、障がい者施設や障がいのあ  
る人と地域との接点が少なく、お互い  
に手を取り合いたくない反面、接し方や交  
わり方に苦労しているような状況で  
した。  
しかし、ここ数年は市内企業からの  
作業依頼の増加や地域の皆さんとの  
交流の活発化により、障がいのある人  
にとっても暮らしやすい社会に近づ  
いていると感じています。

誰もが支え合い、助け合える社会の  
実現のため、地域と障がいのある人  
や障がい者施設をつなぐ活動をしてい  
る小平さんにお話を伺いました。



燕市障がい者自立支援協議会  
会長 小平 松雄 さん

誰もが暮らしやすい燕のために  
これまでの、主に障がいのある人や  
その家族に大きな負担がかかってい  
ました。今後は、障がいのある人の生  
活を地域全体で支えることで、本人や  
家族がより安心して暮らせる燕の実  
現を目指していきたいと考えていま  
す。障がいのある人が置かれている環  
境や制度について、すべての人が積極  
的に考え、支え合いに参加してもらえ  
ることを期待しています。

本当のバリアフリーに向けて  
市内では施設のバリアフリー化も  
進みました。以前と比べるとスロープ  
やエレベーターのある施設が一般  
になりました。「バリアフリー」とい  
う言葉のとおり、隔たりを取り除くこ  
とで、普段の生活はとても快適なもの  
になります。  
私たちの考え方も同じです。障がい  
のある人が、障がいを理由に「諦め  
る」ことや「否定される」ことはあつ  
てはならないことです。隔たりをつく  
るのではなく、互いに手を取り合うこ  
とで、障がいの有無に関わらず、誰も  
が輝いて生きることのできる社会が  
実現できるのではないのでしょうか。

## コラム

### 知っていますか？ ヘルプマーク

外国から見ると、日本はバリアフリーや  
ユニバーサルデザインが最も進んだ国の1  
つと言われています。数ある制度やマーク  
の中で、「ヘルプマーク」とは何か知って  
いますか。  
義足や人工関節を使用している人、妊娠  
初期の人など、外見からは援助や配慮を必  
要としていることがわからない人たちが  
います。「ヘルプマーク」とはそうした人た  
ちが、周囲からの援助や配慮を得やすくなる  
ように作成されたマークのことです。  
電車やバスの中では席を譲ったり、歩行  
や階段の昇降時の声かけも安心に繋がります。  
また、災害時には、状況把握や迅速な  
避難が困難な人もいます。日常生活、非常時  
問わず、ヘルプマークを見かけたら、援助や  
配慮を心がけましょう。一人ひとりの思い  
やりが、たくさんの安心につながります。



※実際の色と異なります。